

## 【館長より新年のご挨拶】

新年明けましておめでとうございます。

去年は、事前予約制ではありますが一般公開を定着させることができました。

また、本館の本格的な企画展としては初めての第一回企画展「キリンが来た道」は、大変好評をいただきました。

なによりも併せて開催した「キリン講話会」には、全国から約250名のご参加をいただき、スタッフはうれしい悲鳴をあげていました。

“キリンファン”がこんなにもたくさんいらっしゃることを驚くとともに、博物館として潜在的な社会ニーズの掘り起こしも必要であると痛感いたしました。

今年も本館を獣医生命科学の総合的博物館へ発展させるべく、博物館法に基づく登録博物館への登録を目指して、活動や施設整備に取り組んでまいりたいと思います。

皆様のご来場をスタッフ一同、心よりお待ちしております。

本年も引き続きFacebook等で当館の情報を発信してゆきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

日本獣医生命科学大学附属博物館

館長 羽山伸一



① キリン講話会の会場の様子

② 一号棟の2階に展示されているキリン「長次郎」の骨格標本

## 【お知らせ】キリン「長次郎」骨格標本の解体について

一号棟2階にて展示されているキリン「長次郎」の全身骨格標本を解体することが決定しました。

長次郎は1940年(昭和15年)10月に上野動物園で生まれ、1942年(昭和17年)7月に井の頭自然文化園に引っ越したのち、1944年(昭和19年)12月に死亡したキリンです。死亡後は本学(当時の校名は日本高等獣医学校)にて解剖され、4年以上の歳月を経て骨格標本となりました。

長次郎の両親は日本で初めて繁殖に成功したキリンです。長次郎より先に同じペアから3頭のキリンが生まれましたが、子どもたちの標本は長い歴史の中で行方がわからなくなっており、長次郎の骨格標本は現存する日本の動物園で生まれたキリンの標本としては最も古いものであると言えます。

長次郎の骨格標本は長年にわたり現在の場所に展示され続けており、標本の劣化や汚れが目立つようになりました。また、骨を支える金具も傷んでしまっていることから、倒壊の可能性が懸念されていました。当館では、現在の状況を改善するためにも、長次郎の骨格標本を解体することを決断しました。

解体することで、骨格標本を安全に保管できる場所に移動することができ、また標本のクリーニングが可能となります。さらに、組立状態ではできなかった計測やサンプルの採取といった研究での活用や、パーツごとの展示も可能となります。「解体して終わり」ではなく、キリン「長次郎」の存在を後世に伝えるため、博物館として最大限の努力をしていきたいと考えています。

入試に伴う臨時休館や解体作業の都合により、現在の長次郎の姿を見ることができるのは1月16日(木)までとなります。ぜひ、解体前に長次郎に会いに当館までご来館ください！

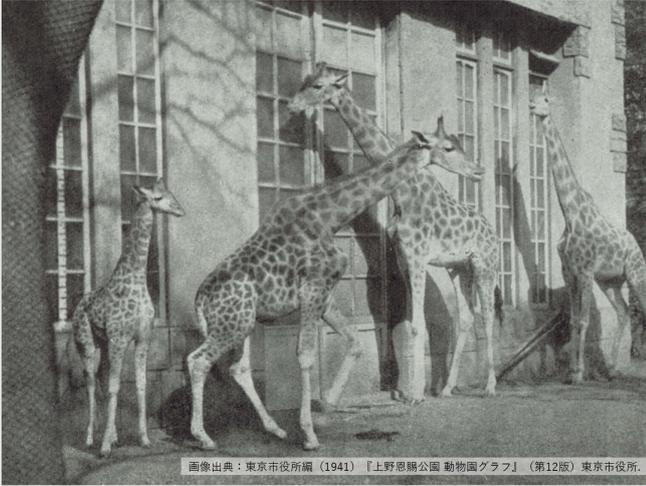
#キリン #日本獣医生命科学大学 #博物館

### ■【お知らせ】キリン「長次郎」骨格標本の解体について

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20250108-01.html>

より詳しい経緯はこちらで紹介しています。

①



画像出典：東京市役所編（1941）『上野恩賜公園 動物園クラフ』（第12版）東京市役所.



画像出典：日本獣医畜産大学専攻科第1期生（1952）卒業アルバム.

③



## 【資料紹介17】ハブ標本

今年「巳年」です。干支にちなんだ資料として、ハブ(*Protobothrops flavoviridis*)の液浸標本を紹介します。

ハブはマムシと並んで多くの人に知られている毒蛇ですので、名前を聞いたことがある人は多いのではないのでしょうか。日本の固有種であるハブは、鹿児島県(奄美群島)と沖縄県にしか生息していません。夜行性で、哺乳類から魚類まで幅広く脊椎動物を餌にしていますが、特に成体になるとネズミ類を主食とすることが多く、森の中だけでなく人家の近くやサトウキビ畑にも出てくることや、攻撃性が非常に高いことで、最も危険な毒蛇とも言われます。

沖縄本島と奄美大島ではハブの天敵としてマングースを導入しましたが、ハブよりも捕食しやすい固有種を餌としたり、農業被害を起こしたりすることが問題となり、マングースの駆除が行われています。実際にはハブは、マングースによる捕食ではなく、ハブ酒作りや皮を使うために採取されたり、駆除されたりすることで個体数が減少しています。

現在自然系展示室では「日本獣医生命科学大学附属博物館 第1回特別展 NVLU 奄美プロジェクト - 研究・保全・そして未来 -」を開催しており、写真で紹介している奄美大島で捕獲されたハブの液浸標本がご覧いただけるようになっています。興味のある方はぜひ当館までお越しください。

(スタッフ 廣瀬)

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #巳年



- ① 展示中のハブの液浸標本
- ② ハブの体の色は変異に富み、生息する島ごとに特徴があります。こちらは奄美大島に生息する黄色味の強い個体で、「金ハブ」と呼ばれるものです。
- ③ 奄美大島では去年9月にハブの天敵として導入された外来種であるマングースの根絶宣言が出されたため、マングースの頭蓋骨標本も展示しています

## 【お知らせ】臨時休館について(2025年1月～3月)

1月から3月は大学の入試シーズンとなるため、開館・休館日程が変則的となります。通常の休館日(日曜・月曜・祝日)の他に下記の日程において臨時休館とさせていただきます。

〈臨時休館(2025年1月～3月)〉

1月17日(金)～1月21日(火)

1月23日(木)

1月31日(土)～2月6日(木)

2月27日(木)～2月28日(金)

3月11日(木)

また、上記の日程のほかに、事前の告知なく臨時休館とさせていただく可能性があります。ご来館の際は必ず最新情報をご確認の上、ご予約をお願いいたします。

### ■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

最新の開館情報はこちらのページにあるカレンダーからご確認いただけます。

## 【活動日誌229】

### 本学および北里研究所に関連した資料の修復を行いました

当館では学内に残された歴史資料の収集・保管を続けています。今年度は、旧学長室から発見された北里研究所の作業簿および論文集と、「S. Umeno」とサインが書かれた専門書の修復を実施しました。

これらの資料は、私立日本獣医学校の第4代校長である梅野信吉氏、もしくは信吉氏の長男であり私立日本獣医学校を卒業したのち本学の経営にも携わられた梅野早苗氏のものと推測されます。両名は本学の歴史を語る上での重要人物であるとともに、北里研究所の職員としても功績を残されています。

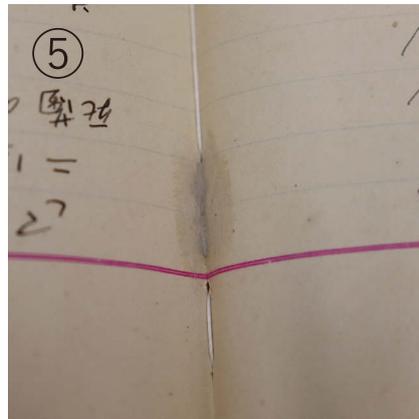
修復を行った作業簿には北里研究所での日々の研究の成果が手書きでまとめられており、世界中を探しても同じものは存在しません。貴重な資料の記録を残すため、作業簿に関しては修復とあわせてデジタル化も実施しました。

信吉氏と早苗氏は本学と北里研究所に所属していた時期が重なっているため、「S. umeno」のサインだけではどちらが残した資料なのかが判断ができません。今後は、デジタル化した作業簿の内容を紐解きながら、資料の詳しい来歴を明らかにしていきたいと考えています。

(学芸員 石井)

#梅野信吉 #日本獣医生命科学大学 #博物館

2025年1月18日の記事



- ① 修復した資料を納品する様子
- ② 1点ずつ修復していただいた箇所についてご説明いただいた上で、状態を確認しました。
- ③ 修復前の作業簿
- ④ 修復後の作業簿の背表紙部分。ひび割れ、剥落などもきれいに補修していただきました。
- ⑤ 以前綴じに使われていたワイヤーがさびて紙が損傷していた箇所は、和紙と澱粉糊で補強していただきました。

## 【お知らせ】『散歩の達人』2025年2月号にて当館が紹介されました

1月21日に発売のされた月刊誌『散歩の達人』にて、当館のことを取り上げていただきました。今月号の散歩の達人は「三鷹・武蔵境・武蔵小金井」特集です。当館は、「誰でも学べるキャンパス、ここにあり」という特集の中で、地域の博物館の一つとして当館が紹介されています。

当館の紹介の他にも、三鷹・武蔵境・武蔵小金井エリアの様々な情報が掲載されています。当館へのご来館と合わせて、周辺を散歩してみてもはいかがでしょうか？

■月刊『散歩の達人』2025年2月号 特集「三鷹・武蔵境・武蔵小金井」

発売日：2025年1月21日

発行：株式会社交通新聞社

価格：880円(税込)

雑誌コード：14067-02

## 【活動日誌230】キリン「長次郎」骨格標本を解体しました

先日、一号棟2階で展示されていたキリン「長次郎」の骨格標本の解体が行われました（長次郎の紹介や解体の経緯は1月8日の記事をご覧ください）。

解体当日は長次郎の周りに脚立を設置して頭の骨と首の骨を回収したのち、左右の肩と前足の骨、左右の後ろ足の骨、骨盤の骨、胸の骨、肋骨の順で外していき、最後に残った部分（脊椎の中の胸から尻尾の先の骨）を回収しました。

解体作業は、長年の展示により弱ってしまった骨が破損しないように、また、骨の位置や順番がわからなくならないように、気を配りながら行いました。標本の状態によっては丸一日解体作業を行うことも想定していましたが、3時間ほどですべての作業が終了しました。

解体時の詳しい様子は後日大学公式サイトに掲載している「博物館ニュース」にてご紹介したいと思います。どうぞお楽しみに！

（学芸員 石井）

#キリン #日本獣医生命科学大学 #博物館

### ■【お知らせ】キリン「長次郎」骨格標本の解体について

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid0iodUMFqGrWwnSWLsDTLAbBgS5BmbmFyVnqXzRPQnSgogtdYc1qWCYX9xQSnZmcLfl>

長次郎の紹介や解体の経緯はこちらの記事をご覧ください

2025年1月25日の記事



- ① 頭の骨を取り外す様子。手前に写っているのはスナメリの骨格標本です。
- ② 首の骨を取り外す様子
- ③ 解体された長次郎

## 【今日は何の日6】世界湿地の日

こちらのFacebookで過去にも紹介してきましたが、2月2日は世界湿地の日(World Wetlands Day)です。1971年2月2日に湿地の保全に関する「ラムサール条約」が採択されたことから、1996年に記念日として定められました。

ラムサール条約は正式名称を「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、毎年世界湿地の日に合わせて各国で湿地の保全に関するイベントが行われています。今年のテーマは「湿地を守ろう わたしたちの未来のために」で、ポスターや資料などが環境省から公開されています。

当館は、カモ類をはじめとして水辺に生息する野鳥の剥製を、常設の自然系展示室で展示しています。今年度は、昨年度剥製を作った大型の水鳥であるコウノトリも仲間入りしています。

明日1月31日から2月6日は本学で入試が開催される都合により臨時休館となっているため、2月2日当日は剥製をご覧いただくことができません。ぜひ通常の開館日にご予約のうえ、剥製を見に当館までご来館ください。

#WorldWetlandsDay #WWD #世界湿地の日 #日本獣医生命科学大学 #博物館

### ■World Wetlands Day

<https://www.worldwetlandsday.org/>

World Wetlands Dayの公式サイトはこちらです(英語)

### ■環境省 ラムサール条約と条約湿地「世界湿地の日」概要およびポスター

[https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/World\\_Wetlands\\_Day.html](https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/World_Wetlands_Day.html)

環境省による日本語解説はこちらで見ることができます

### ■来館案内

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/access/index.html/>

見学をご予約いただく際はこちらのページを御覧ください



- ① World Wetlands Day 2025の公式ロゴ
- ② 当館の自然系展示室の水鳥展示エリアの様子